

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 愛媛県
都道府県 愛媛県
対象地域 愛媛県松前町・伊予市
対象品目 水稲



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
● 有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

伊予市・松前町では、7戸、約41ha（普及組織調べ）で有機水稲栽培が行われており、スクミンゴガイによる水稲苗の食害は、農薬を使用しない栽培にとって、大きな問題であり、面積拡大の阻害となっている。

そのため、スクミンゴガイの被害を軽減するために、既存の田植機で対応できる中苗（35日苗・葉齢約3.5）移植法及び捕獲トラップを使用した省力的な駆除方法について検証を実施し、栽培マニュアルの策定を行った。今後は栽培マニュアルをもとに、県の普及指導員や研究員、JA営農指導員による個別巡回指導や栽培講習会などにより技術の普及および有機水稲栽培面積の拡大に努める。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名			定植	水稲生育管理									
			捕殺				収穫						
技術名			稚苗移植										



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名			定植	水稲生育管理									詳細は「有機水稲のグリーンな栽培体系マニュアル」参照
							収穫						
技術名			トラップ設置 中苗移植										詳細は「有機水稲のグリーンな栽培体系マニュアル」参照

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	41.4 ▶	41.4	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.2 ▶	41.4	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.2 ▶	41.4	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.2 ▶	41.4	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	稚苗（25日苗）移植	▶ 中苗（35日苗・葉齢約3.5）移植	スクミリングガイ食害の軽減 除草作業の削減
環境 省力	スクミリングガイ捕殺	▶ 捕獲トラップの設置	スクミリングガイ食害の軽減 作業時間の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	除草作業の削減	3	▶ 1	
環境 省力	スクミリングガイによる欠株率	15%	10%以下	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する
(有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

- ・普及指導員、農林水産研究所研究員及びJA営農指導員が中心となって、栽培講習会や個別巡回指導等の際に、栽培マニュアルを元に中苗移植技術やトラップの設置を推進する。
- ・技術導入農業者からの技術評価や栽培データを収集し、そのデータを活用してさらなる技術普及に努める。

関係者の役割

関係者名	中予地万局農業振興課 農林水産研究所	JA松山市・JAえひめ中央	農業者	
役割	栽培指導 栽培、産地データの収集	農業者との調整 栽培指導 技術の広報 資材の手配	栽培技術の導入 栽培、産地データの提供 栽培技術の検討	

その他